

フォートウェイン市 Parkview Health との医療交流を終えて

私は診療放射線技師として今回の Parkview Health との医療交流に参加しました。病院としては3回目の派遣ですが、診療放射線技師の派遣は今回が初めてということでその使命と責任、併せて不慣れな英語、外国の方との交流など大きな不安を抱えた準備期間であったと振り返って思います。しかし、Parkview での交流が始まるといつも笑顔で親切な職員の方々、明るい雰囲気の病院、そういった環境が不安と緊張感を和ませ、とても穏やかで有意義な交流ができたと感じています。

期間中は日本の医療について各々の職種の視点から英語でのプレゼンテーションや、実際の Parkview での医療業務の見学 (Shadow)、Tumor board の見学、LDI と呼ばれる約500人が参加する大きな会議への参加など様々な体験をしました。約3カ月前よりスライドの準備・英訳、そして発表練習を繰り返し行って臨んだプレゼンテーションでは、私は「日本の認知症の画像診断」と題してプレゼンテーションを行いました。高岡市民病院では10月に認知症疾患医療センターを開設しており高齢化の進む日本で認知症への関心が集まる中、その画像診断の意義をアピールしてきました。また、Shadow では放射線治療部門、画像診断部門の見学を中心に内視鏡室や手術室などの見学も行いました。手術室の見学では自施設にはない Da Vinci によるロボット手術の見学など貴重な経験ができました。

画像診断部門には高岡市民病院の10倍以上の診療放射線技師がおり、その規模に圧倒されました。また、各診療放射線技師が専門を持ち、業務を細分化することで質の高くスループットの良い検査を提供できている点に興味をもちました。放射線治療部門では、治療計画 CT から治療計画、シミュレーション、照射に至るまでそれぞれのパートに専門的な診療放射線技師がいます。特に CMD(Certified Medical Dosimetrist) と呼ばれる職種は、日本では放射線治療専門医が中心になって行っている治療計画を専門に行い、日本ではまだまだ人数の足りない放射線治療専門医の助けとなる素晴らしい職種であると感じました。

公立病院と民間病院の違いがあるため、その規模・施設は到底比較できるものではありませんが、専門性の高さ、職員それぞれが明確な役割分担を行っている点は今後の業務にも活かすべき点です。

また、職員と職員、職員と患者さんの距離感がとても近く、互いに笑顔で挨拶を交わす点など明るい病院の雰囲気作りはすぐにでもできるものであり、それぞれの信頼を深める一番簡単で重要なものであると改めて実感しました。

最後に、今回の医療交流では日米における医療の違いを感じる素晴らしい経験ができました。アメリカの医療と文化に触れ、刺激を受け、多くのことを学び多くのことを得た医療交流でした。貴重な経験をする機会を与えて頂き、ありがとうございました。

平成 29 年 12 月

高岡市民病院 診療放射線技師

伏江 良仁